

コラム

夏休みの宿題

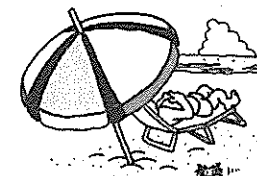
8月の後半になると、小学生の頃、夏休みの宿題が終わらなくて大騒ぎをしていたことを思い出す。算数の計算問題が1冊残っている…、漢字の書き取りが10ページ分残っている…、読書感想文が残っている…で、夏休み最後の一日は大慌てであった。しかし、それでも理科の自由研究や図画工作などは自分で課題を設定して好きなようにできたので、普段できない勉強として楽しみでもあった。星の観測だと言っては天の川を贅沢に眺め、昆虫採集と言っては野山に出かけたりして楽しんでいたものであった。図画工作などでは鉄道模型をつくろうと、ベニヤと段ボールで電車を組み立てては楽しく走らせていたのを、つい昨日の事のように思い出す。

ところで…だ。最近の小学生の宿題事情なのだが、大都市圏を中心に状況が大きく変わりつつあるらしい。それは、宿題代行屋さんの台頭によるものだ。一昔前までは、多くの方々が、筆者同様に夏休みの宿題に追いつ追われつ、中には宿題を早めにかたづけ悠々自適に毎日を過ごす強者もいたかもしれないが、概ね、宿題と格闘の日々を経験してきた。しかし、最近は、夏休みの宿題などは時間の無駄、宿題などは業者に任せ、海外旅行に出かけるなり、塾に通うなりの方がよいと考える親御さんが増えてきているようなのだ。ホームページ等で宿題代行業者のページを見ると、ほとんどの業者が完売状況となっている。算数のドリル等が1冊単価1万円前後、感想文が原稿用紙1枚単価3千円前後、図画

工作が1点単価1万円前後で取引されているようなのだ。大人の世界では、事の善し悪しは別としても、ゴーストライター、替え玉、影武者等々が存在してきたが、ついにどうか、小学生の中にまで、しかも公然と代行業者が入り込む時代となってきた。こうした状況をどう受け止めればよいのであろうか？

確かに、日本の夏休みは、名ばかり夏休みというか、夏休みと言いつつ登校日が頻繁にあり、宿題がありで、まとまった日を要するような独自の取り組みを家庭で行なおうとしても難しい面がある。子どもたちの将来に備えて、夏休み期間中に英会話塾に通わせた方がよい、受験に備えて進学塾に通わせた方がよい等々と考える親御さんが出てきても不思議ではない。不思議ではないのだが、しかし…、やはり変なのではないだろうか？

もし、本当に親子共々、夏休みの宿題に価値が全く見いだせないというのであれば、宿題などやらなければよいのではないだろうか？そして、学校に対して宿題をする必要はないと主張するなり、抗議するなり、集団訴訟を起こすなりすればよいことなのではないだろうか？何故、大金を払って業者を雇ってまでして「宿題をやったふり」をするのであろうか？その点が全く奇異でしかたがない。「宿題をやったふり」では、制度上の問題も解決しなければ、本人の学力にもならず、何の解決にも繋がらない。ただ、形式上の体裁が整えられるだけであり、根本の亀裂は、むしろ大きく酷くなるだけではないだろうか。ま



杜 海樹

た、万が一、本当は宿題はやった方がよいという気持ちが残っているのであれば、やはり本人がおこなうべきことではないだろうか。

かつて、日本では修身の教科書で子どもたちが道徳を学び、上の人の言うことは絶対だと言い、世界大戦中は勝ってもいない戦争にも「勝った、勝った」等と言いつつ、負けている戦争でも勝ったふりをし続けた。しかし、その後どうなったか？結果はご承知の通りだ。勝ったふりをしたところで、どうにもならないものはどうにもならないのだ。問題は先送りすればするほど解決が難しくなっていくというものである。

さて、私たち大人にも課されている宿題は多いように思う。夏休みの宿題以上に真剣に取り組まなければならない問題は実に多い。

例えば、日本国憲法。憲法改悪阻止以外にも問題は結構あるものだ。憲法第9条には「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」とある。多くの場合、憲法9条を改悪させない立場から、憲法9条の不十分さを指摘することは少ない（遠慮している）ようなのだが、問題点がないわけではなく、より良く変える観点からの指摘がないというのも問題なのではと筆者は考えている。

憲法9条の問題点のひとつに「国際紛争を解決する手段としては」という但し書きがある。1980年時の衆議院森清議員の質問に対

する政府答弁においては「国際紛争を解決する手段としての戦争、武力による威嚇、武力の行使を放棄しているが、自衛権は否定されておらず、自衛のための必要最小限度の武力の行使は認められている」となっている。自衛権云々の問題もあるのだが、答弁では触れられていない「国際紛争を解決する手段としては」以外のことは一体なんなのか？という問題がある。国際紛争ではない「国内紛争」であれば武力の行使は認められる？ということなのだろうか？沖縄に対する政府の態度を見ていると果たしてどうであろうか…と思うことしきりだ。また、相手が正式の国家ではない場合はどうなるのであろうか？問題が経済紛争であつたらどうなのであろうか？問題の解決を目指さないという場合はどうなのであろうか？疑問は次々と出てくる。とてもとても、夏休み期間で終わるような問題ではない。ましてや宿題業者に発注して済むような問題でないことは言うまでもない。

